

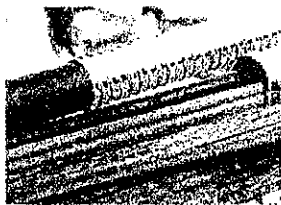
骨材、地すべり工事士の普及

し吊荷の安定を図り、1リング分8枚のライナープレートの坑内荷降ろしを行えることで、安全かつ効率的に行う事ができたという。

SHS永久アンカー工法

SHS アンカー工法は、信頼性の高い二重防錆を施した永久アンカーを使用。自由長部は、防食性を高めるためポリエチレンシースを使用し、定着長部シースにはグラウトとの付着性能を高めるためにステンレスのインデリングシースを使用。また、SHS 永久アンカーケーブルは、AAW パネル、クロスビーム、KKE 受圧板、KKE フレーム、フリーフレーム、SEC 工法などと組み合わせて、地山全体を長期にわたって安定させることができる。

原社長は「雨水で腐食することがないため耐久性に優れ、安心して採用できる。価格の安さばかりでなく、長期的なコストと安心を考えて採用してもらいたい」と話す。



自由長部ポリエチレンシースをSHSシース内へ20cm挿入



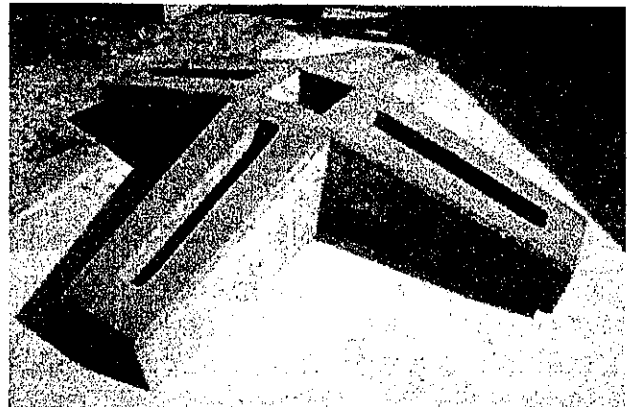
トランペットシース付支圧板の設置



KKE受圧板+SHS永久アンカー

ミラクルソルで軽量コンクリート

コンクリート建築物や構造物の高層化や工事の省力化に伴うコンクリートの軽量化が望まれているが、同社は発泡廃ガラスのミラクルソルを骨材（碎石）の代わりにコンクリート2次製品も製品化。長大斜面に用いる場合が多いアンカーの受圧板で、発泡廃ガラス材を粗骨材としてRC 十字ブロックを作製。運搬・施工が地形的に困難ななか、軽量化で施工が容易になる。また、雪国の斜面における雪崩防止ブロックも軽量骨材を使用し製



RC十字ブロック

作。発泡廃ガラス材をコンクリートの骨材として用いると単位体積質量は約45%も大幅に低減。コンクリート2次製品では従来の製品より3分の2に軽量化し、普通骨材に相当する強度を得ている。

建設マスターを受賞 同社の久保、石原2氏



優秀施工者
国土交通大臣顕彰式



建設マスターを受賞した久保さん(右)と石原さん

原社長は、佐賀県地質調査業協会理事長として、斜面防災工事を専門的に施工できる地すべり工事士の普及に力を入れており、同社ではボーリング技術者2人が2016年度の国土交通省優秀施工者（建設マスター）を受賞した。

久保浩一氏（52才、建設マスター）と石原誠太郎氏（39才、建設ジュニアマスター）の2氏。久保さんはボーリングに携わって34年、卓越した技術・技能とともに、若手技術者の育成に寄与した功績が認められた。「地下の地層を見て的確に地質の状態を判断することが醍醐味」と語る。一方、石原さんは、唐津工業高校卒業後、同社に入社し21年。数年前に工期が短くハードな現場で悪戦苦闘した結果、県から81点の評価を得た。「我慢が大事。5年経つと何かが見え、その苦勞の成果が分かるようになる」と自身の経験を語る。